

次世代を生きる清瀬の子供たちの「生きる力」をはぐくみ、地域と共に歩む21世紀型学校を目指します。

つながりの学び舎

1

学びをつなげる

「まなびミチ」21世紀型学校を象徴するラーニングコモンズ

2

教科がまなびミチでつながる

地域共創・協働拠点「清瀬ミライラボ」

3

学校と地域をつなぐ

「きよミチ」市役所通りをさなる交流軸に

4

空と緑とつながる

環境配慮を行いZEB Readyの達成

5

学びの環境を未来へつなぐ

小学校完成時だけでなく、将来の中学校の建替えを見据えた計画

みんなで育てる21世紀型学校

学校をつくることは、まちの未来をつくること。学校づくりは「まちづくり」と考えて計画します。

子供たちが安心して学べる学習環境

生涯学習の場としての学校

地域コミュニティの中核

配置計画

■ 配置計画の考え方

- ・新校舎は現小学校の校庭・体育館・プール跡地に配置し、けやき通りに面する部分は低層とすることで、近隣への圧迫感等に配慮した計画とします。
- ・道路拡幅される市役所通りに沿って、学校と地域の交流プロムナードとして「きよミチ」を設けます。
- ・銘木・巨木100選のいちょうを見ながら児童が安全に通学することができる「いちょうプロムナード」を設けます。

■ 動線計画

- ・児童が安心して通学できるよう、通学動線として敷地内に「きよミチ」「いちょうプロムナード」を計画します。
- ・駐車場と職員用駐輪場の出入口は、正門から離れたけやき通り側に設けることで、児童の登校動線と明確に区分します。
- ・けやき通り側の敷地を5mほど後退することで通行帯を設け、児童が安全に通学できる動線を確保します。

■ 屋外ひろばと遊び場空間

- ・校舎北側の広い「校庭」、校舎2階「低学年テラス」、けやき通りに面する芝生の「プレイコート」、3つの屋外ひろばを配置します。
- ・低学年テラスやプレイコートは放課後の学童クラブの遊び場になるほか、旧校舎解体工事中は新校舎内の体育館と合わせて、児童の遊び場空間を確保します。

所在地	東京都清瀬市中里五丁目 741	
敷地面積	13,828.00 ㎡	
主要用途	小学校、児童福祉施設	
構造形式	S造	
規模	地上4階建	
建築面積	4,500 ㎡（建ぺい率：32.54％）	
延床面積	11,000 ㎡（容積率：79.55％）	
建物高さ	19.0m	
計画規模	普通教室	4学級×6学年＝計24学級
	特別支援学級	6学級
駐車台数	9台	
駐輪台数	48台	

平面計画

■ 1階

- ・1階には管理諸室・特別教室のほか、給食室・学童保育室・特別支援教室を配置します。
- ・管理諸室はいちょうプロムナードに面して設け、児童の登下校や校庭での活動を見守れる配置とします。
- ・特別教室は「きよミチ」に面して設け、学校開放や避難所活動の際に外部と一体的に利用できる配置とします。
- ・昇降口正面の「まなびミチ（ラーニングコモンズ）」に、専科のメディアスペースや学校史ミュージアムを設けます。

■ 2階から4階

- ・2階から4階には普通教室・小教室のほか、体育館・特別支援学級・特別教室を配置します。
- ・2階の「まなびミチ（ラーニングコモンズ）」には、学年で集まれるスペースとしてアトリウムや階段ホールを設けます。
- ・図書は「まなびミチ（ラーニングコモンズ）」全体に配置します。

学びの計画

■ 学びと生活

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立する
様々な出会いの場がある学年ハウス

・21世紀型学校では子供たち個々人の適性に合わせた「個別最適な学び」と子供同士や多様な他者との「協働的な学び」の両方の実現が求められています。様々な出会いの場所をつくり、教育や活動の選択肢を増やす「カギ型形式の教室」とすることで「個別最適な学び」を実現します。さまざまな活動の手掛かりを生み出すオープンスペースにより学習への興味・関心を誘発し、子供同士や先生と子供との出会いの場となることで「協働的な学び」を実現します。

＜フル・クローズモード＞
進度別、グループ別、様々な
大きさのグループ学習

＜セミ・オープンモード＞
各学級の授業のスタイルに
合わせた学習

＜フル・オープンモード＞
互いの学級が一度に見通せる
学年単位の学習

1学年あたり
最大13の場所が
つくれる!!

12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

閉

教育の選択肢がグラデーションに広がる

開

個別最適な学び
集中できる環境

児童だけでなく、先生も多様な選択・場所づくりがしやすい

協働的な学び
さまざまな出会い

■ 共創

「つむぐ」「あつまる」「ひらめく」「うたう」を
つなげることで生まれる「学びの連鎖」

・特別教室を「つむぐ」「あつまる」「ひらめく」「うたう」
の4つの機能に分類し、最適なフロア（1階～4階）
に配置します。

・「つむぐ」「あつまる」「ひらめく」「うたう」の4つの機
能（フロア）が吹抜けや「まなびミチ」で立体的につ
ながることで、従来の「学びが教室の中で完結する
特別教室」では得られない、学び・出会い・刺激を
誘発します。

・「まなびミチ」を中心として、教科毎の魅力が互いに刺激し合える場が生まれることで、
学びが連鎖し、児童の出会いや活動をより創発的なものへと変えていきます。

4F

3F

2F

1F

うたう

ひらめく

あつまる

つむぐ

学びの連鎖

体育館

つむぐ

「まなびミチ」を中心に学びが連鎖するイメージ

バリアフリー計画

・子供や高齢者等の施設利用者が利用しやすいようユニバーサルデザイン化を図ります。

・廊下幅員は有効1.4m以上、主要廊下は2.1m 以上を確保し、車椅子使用者や障害者等の移動に配慮します。

・車椅子使用者用駐車場はピロティに計画することで、雨に濡れずに施設内にアクセスできる計画とします。

地域開放エリア

主要廊下
は幅員
2.1m 以上

地域開放エリア

各階にバリア
フリートイレ
を計画

地域開放エ
リア内にバリア
フリー対応
の26人乗り

車椅子使用者用駐車場から
雨に濡れずに施設内にアクセス

【1階】

【2階】

【凡例】

■ :EV(バリアフリー対応)

■ :バリアフリートイレ

■ :車椅子使用者用駐車場

→ :移動等円滑化経路

→ :視覚障害者誘導ブロック

避難所計画

■ 防災拠点として皆が安心できる学校

・地域開放エリアと避難所が同じ開放区画となる計画とし、災害時即座に対応できる計画とします。

・「きよミチ」の軒下空間は、一次物資受入や炊出しに活用出来ると共に、一時的に避難者を受け入れる半屋外空間に転換し雨に濡れない待機場所となります。

■ 指定避難所等としての機能

【建築】

・1,2階のフロアでは地域開放エリアを避難所エリアとして利用できる安全な避難所計画とします。

・備蓄倉庫は屋内に配置し、体育館との連携がしやすい配置とします。

【構造】

・耐震安全性の分類はⅡ類を採用します。

【機械設備】

空 調：災害時空調が必要な室に電源自立型GHPを設置します。

衛生器具：大便器は断水時でも使用可能とします。

給 水：1・2階は直結直圧給水方式とし停電時も給水できます。

排 水：災害時利用トイレ排水を3日間貯留できる貯留槽を設置します。

【電気設備】

・太陽光発電設備の自立運転により必要箇所へ電源供給を行います。

【凡例】

■ :避難場所・避難所

■ :蓄電池電源供給範囲

屋外WC
(災害用WC)

校庭
(指定緊急避難場所)

保健室・職員室
(教護室)(庁舎連携)

エントランス
(支援物資置場)

給食室

学童

多目的室
(要配慮者スペース)

家庭科室
(炊出スペース)

【1階】

災害が長期化する場合は
体育館のみ単独利用が
可能な計画とします

体育館
(指定避難所)

ステージ
(災害備蓄品置場)

備蓄倉庫
食料(3日分)、飲料水、
生活必需品等を備蓄

低学年テラス

【2階】

構造計画・設備計画

構 造 種 別	鉄骨造	
構 造 形 式	耐震構造（ブレース付きラーメン架構）	
基 礎 形 式	直接基礎（柱状地盤改良）	
受 変 電 設 備	受電方式：高圧1回線受電	盤形式：屋外型キュービクル
太 陽 光 発 電 設 備	設備容量：40kW 程度（蓄電池併用）	
通 信 設 備	構内情報通信網設備（LAN 設備）、構内交換機設備（TEL 設備）、時刻表示設備、映像・音響設備、 拡声設備、誘導支援設備（トイレ等呼出設備、インターホン設備）、テレビ共同受信設備	
防 災 防 犯 設 備	火災報知設備、非常通報装置設備、監視カメラ設備、機械警備配管設備	
空 気 調 和 設 備	教室・給食室・共用部	空冷ヒートポンプパッケージ空調機（EHP）
	特別教室等（避難所対応）	空冷ヒートポンプパッケージ空調機（電源自立型 GHP）
給 水 設 備	上水	直結給水方式＋直結増圧給水方式
	雑用水	ポンプ直送給水方式＋雨水貯留槽
	グラウンド散水	受水槽＋加圧給水方式
排 水 設 備	屋内、屋外	汚水、雑排水合流方式

環境配慮計画

■ 持続可能な社会の形成に資する

・清瀬の自然と緑のネットワークを生かし、地域の生物多様性の確保に貢献する施設をつくります。住み続けられる環境づくり、まちづくり、社会の形成を、施設の使い方の工夫と効果の検証を通して探究できる学校施設とします。

・環境配慮技術を採用し、ZEB Readyの達成を目指します。

■ 環境配慮

（1）建築物の断熱化

・屋上デッキや屋上緑化を計画することで空調負荷の低減を図ります。

・開口部は複層ガラスを使用し、空調負荷低減を図ります。

（2）自然エネルギー

・自然採光に配慮し、可能な限り照明点灯を抑えます。

・中間期の自然通風を促し、空調換気機器の運転短縮に配慮します。

（3）省エネルギー化

□空気調和設備等

・冷暖房機器は高効率型を計画し、空調範囲を細分化します。

・各教室には全熱交換器を設置します。

□照明設備

・全館LED照明を採用し消費電力削減を図ります。

・階段等には人感センサーを設置し、消費電力量削減を図ります。

（4）水資源の保護

・節水型器具の設置や便器洗浄水等の雨水利用を通して水資源を保護。

（5）再生可能エネルギー等の利用（太陽光発電40KW相当）

（6）生態系の保全等自然環境との調和（歩道状空地、緑地）

太陽光発電パネル
停電時の非常用電源
として使用可能

自然通風（重力換気）

ハイスайдライト
北側からの
安定した採光の確保

屋根高断熱

バルコニー
手すり
夏季日射をカットし
冬季日射を取得

屋上緑化
環境学習
低学年教室前の
植栽

低学年テラス

普通教室

普通教室

普通教室

アトリウム

学童保育室

配膳室

洗浄室

給食室

印刷室

廊下

プレコート

雨水貯留槽
トイレ洗浄水に再利用

工事工程計画

・新校建設事業は、下表に示すスケジュールを基本として進めます。

年

2026（令和8）年度

2027（令和9）年度

2028（令和10）年度

月

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

工事

○中体育館大規模改造（6ヶ月）

○通学路変更工事（2ヶ月）

②小体育館プール解体（4ヶ月）

○中プール解体

③新校舎建設工事（17ヶ月）

業務運用

既存校舎にて運用

年

2028（令和10）年度

2029（令和11）年度

2030（令和12）年度

月

10

11

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

工事

③新校舎建設工事（17ヶ月）

④開校準備／移転（5ヶ月）

⑤既存校舎解体（9ヶ月）

⑤校庭整備（6ヶ月～）

業務運用

既存校舎にて運用

新校舎にて運用